

V 救急編

救急隊配置状況・救急概況

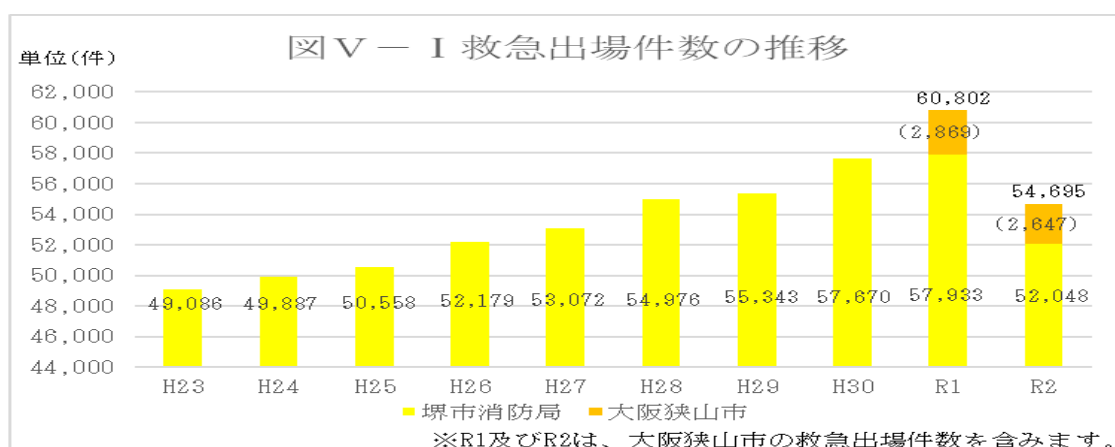
1 救急隊配置状況

当消防局では、市民からの救急要請に即応するため、消防署所の管轄区域を基本として救急隊を分散配置しています。救急要請に対して速やかな対応を図るため、現在は計 25 隊の救急隊（特別救急隊 1 隊、専任救急隊 21 隊、兼任救急隊 3 隊）を配置し、高度な専門教育を受けた救急救命士 138 名を含む救急隊員 257 名が、24 時間 2 交替制で勤務しています。



2 救急概況

近年の救急出場件数は、超高齢化の急速な進行に加え、気象（夏季の気温上昇に伴う熱中症患者の増加）や感染症の流行（インフルエンザ）等の影響を受け、年々増加傾向にありましたが、昨年（令和2年中）は、救急出場件数 54,695 件（大阪狭山市を含む・対前年比：約 10.0%減少）、搬送人員 48,263 人（大阪狭山市を含む・対前年比：約 11.7%減少）となり、平成 20 年以来 12 年ぶりに対前年比で減少しました。今回、減少に転じた主な要因としては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、市民の方々の衛生意識の向上や不要不急の外出自粛などの行動変容により減少につながったものと分析しています。



救急概況

		令和2年	令和元年	増減状況
救急 出場 件数	堺市消防局	52,048 件	57,933 件	5,885 件減少
	大阪狭山市	2,647 件	2,869 件	222 件減少
	合計	54,695 件	60,802 件	6,107 件減少
搬送 人員	堺市消防局	45,899 人	52,039 人	6,140 人減少
	大阪狭山市	2,364 人	2,639 人	275 人減少
	合計	48,263 人	54,678 人	6,415 人減少
1日 平均 救急 出場 件数	堺市消防局	142.2 件	158.7 件	16.5 件減少
	堺市消防局 (大阪狭山 市を含む)	149.4 件	166.5 件	17.1 件減少
救急 出場 頻度	堺市消防局	10分7秒に1回	9分4秒に1回	1分3秒頻度減少
	堺市消防局 (大阪狭山 市を含む)	9分38秒に1回	8分38秒に1回	1分頻度減少

救急体制の充実・応急手当の普及啓発活動の推進

1 救急体制の充実

(1) 救急ワークステーションの設置

救急搬送を適切に行っていくためには、とりわけ救急隊員の資質向上が欠かせません。救急隊員の知識・技術の向上を図る教育拠点として、堺市では平成27年7月1日に堺市立総合医療センターが新築移転することに合わせて、同センター敷地内に「救急ワークステーション」を開設しました。救急医や看護師と日常的に協働し、指導救命士による教育指導を受けることで、病院前救護のスペシャリストを育成する施設として活用しています。救急ワークステーションに配置する特別救急隊（フェニックスアンビュランス）はドクターカーとして運用しているほか、多数傷病者発生事故に出場して救急現場活動の指揮体制といった任務を担っています。



(2) メディカルコントロール協議会との連携

救急隊員が行う観察や応急処置、搬送先医療機関選定には医学的側面からの指導・助言が求められており、その医学的な部分の質を保証する一連の取組をメディカルコントロール（以下、MC）と言います。

堺地域MC協議会では、一般的な質の改善のためのプロセスであるPDCAサイクルを用いて、大阪府、地域の救急医療の中核となる救急医療機関の医師、堺市医療行政担当者、医師会、消防が連携し、地域の病院前救護に関する課題解決と改善に取り組んでいます。



(3) 大阪府救急搬送支援システム（^{オリオン}ORION）の活用

大阪府では、傷病者の救急搬送をより円滑に行うため、「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」として、傷病者の搬送と医療機関の受入れをルール化したORIONと称するICTを活用して病院選定を行っています。

傷病者の状態や症状から緊急度を判定し、その緊急度と症状に応じた最も直近の医療機関を割り出した上で、円滑な搬送につなげています。

【画面イメージ】

The screenshot shows the '実施基準評価' (Implementation Standard Evaluation) screen of the ORION app. It features a list of symptoms for selection, a section for '緊急度判定' (Emergency Level Determination) with a red background, and three search buttons at the bottom.

- 実施基準評価
- ▼ 志気/嘔吐
- ◆ 腹痛
- ◆ 吐下血
- ◆ 下痢
- ◆ 血尿/側腹部痛
- ◆ 泌尿器科疾患
- ◆ 産婦人科疾患
- ◆ 発熱
- ◆ 上記以外の症状/徴候

緊急度判定

緊急度判定を行う場合は、下記のボタンをタップして下さい。

緊急度：赤1
特定機能判定：
救命救急センター、
循環器疾患：PCI等

特定機能応需検索

科目応需検索

その他検索



2 応急手当普及啓発活動の推進

病院外で急病や事故に見舞われた傷病者を救命するためには、救急車が到着するまでの間に、市民による応急手当が実施されることが非常に重要です。当消防局では、市民に対する応急手当の普及啓発を積極的に推進し、救急体制の充実強化を図るため、市民や事業所等を対象に、心肺蘇生法やAEDの使い方、けがの手当などの習得を目的とした各種救命講習会を開催しています。

令和2年中の救命講習会実施状況

区分 講習会名	開催回数 (回)	受講人数 (人)
普通救命講習	116	2,093
上級救命講習	3	73
応急手当普及員講習	12	212
救命入門コース	173	2,610
その他の講習	2	16

令和2年については新型コロナウイルス感染症流行に伴う緊急事態宣言発令を受け、応急手当講習を中止していた期間があったため、受講者数は例年に比較し大きく減少していますが、ご自宅や職場でも応急手当を楽しく学んで頂けるよう、「応急手当普及啓発シリーズ」と銘打った動画を作成し、インターネット上で公開しています。

【動画イメージ】



【動画サイト QR コード】



(1) 救命の連鎖

急変した傷病者が医療機関に到着するまでの一分一秒は「救える命」を救うためのかけがえのない時間です。傷病者を救命し、社会復帰させるために必要となる一連の行為を「救命の連鎖」といいます。「救命の連鎖」における最初の3つの輪は、現場に居合わせた市民によって行われることが期待されます。また、傷病者のそばに居合わせた市民による「早い通報」と「適切で速やかな救命処置」が施されることにより、命を救える可能性が一層向上します。

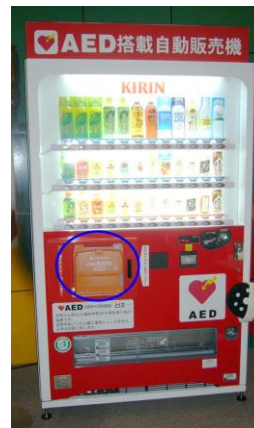
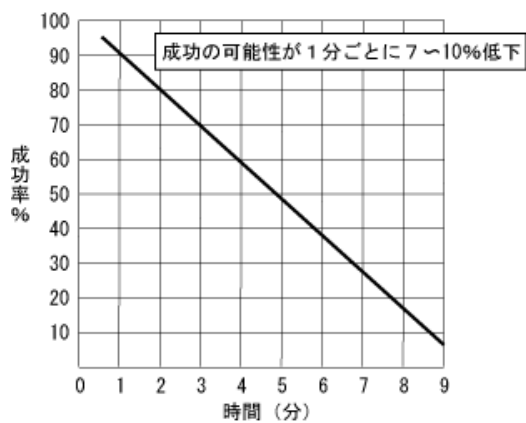
救命の連鎖



(2) 心肺蘇生法とAED（自動体外式除細動器）について

心臓や呼吸が止まってしまった人を助けるには、心肺蘇生法とAEDの手技を行う必要があります。とくに、心臓の筋肉がけいれんし、全身に血液を送り出すポンプ機能が失われる不整脈「心室細動」に陥った際の唯一の治療法は、電氣的除細動（電気ショック）です。この電気ショックを一般市民の方でも簡単に扱えるようにした器械がAED（自動体外式除細動器）です。

心室細動の発症から除細動までの経過時間と除細動の成功率



AEDは病院や診療所はもちろん、空港や駅、学校、スポーツクラブ、公共施設、企業、自動販売機など人が多く集まる場所を中心に設置されています。スイッチを入れて音声ガイドに従って使用します。AEDが心臓の動きを自動解析し、必要な人にだけ電気ショックを与える仕組みになっているため、安心して使用できます。もしもの時に備え、救命講習に参加して心肺蘇生法とAEDの手技を身につけてください。

